

表3. 救急医療施設の診療部門における分析に関連する希望事項の優先順位

希望事項	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	合計施設数
①分析機器の設置	16	5	11	9	5	6	3	6	5	0	66
②分析担当人員の増加	18	16	4	6	8	7	6	2	4	0	71
③試薬、機器等維持費の増加	2	13	16	7	9	6	5	7	1	0	66
④分析スペースの拡大	1	4	4	8	4	12	9	6	15	0	63
⑤統一マニュアルの作成と配布	9	15	16	13	6	8	4	3	0	0	74
⑥講習会の実施	3	7	10	7	14	8	12	6	2	0	69
⑦分析費用の保健適応	24	12	7	8	7	5	5	2	2	1	73
⑧分析情報提供の充実											
1)方法論について	1	8	2	9	8	6	9	11	3	0	57
2)分析可能施設について	9	6	7	7	2	2	5	10	14	0	62

表4. 救急医療施設の分析部門における分析に関連する希望事項の優先順位

希望事項	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	合計施設数
①分析機器の設置	33	27	14	16	13	9	12	7	9	1	141
②分析担当人員の増加	39	28	15	14	12	10	11	5	7	1	142
③試薬、機器等維持費の増加	11	12	31	13	21	17	17	12	2	0	136
④分析スペースの拡大	5	3	11	17	16	15	15	17	29	0	128
⑤統一マニュアルの作成と配布	31	24	32	16	14	20	11	5	2	0	155
⑥講習会の実施	11	27	16	17	17	21	21	11	4	0	145
⑦分析費用の保健適応	30	21	18	22	18	9	15	5	6	0	144
⑧分析情報提供の充実											
1)方法論について	10	14	16	18	13	16	9	30	5	0	131
2)分析可能施設について	5	11	5	11	13	9	13	17	39	0	123

表5. 他施設からの生体試料分析の受諾経験がある物質

物質名	施設数
医薬品(アセトアミノフェン、催眠鎮静剤、抗うつ薬)	21
覚せい剤、麻薬	19
アルコール類	14
農薬	13
ガス(一酸化炭素、硫化水素)	6
重金属(ヒ素、タリウム、亜鉛)	6
有機溶媒(トルエン、キシレン等)	6
自然毒(アコニチン、アマニチン等)	4
不明物質、乱用薬物のスクリーニング	3

表6. 研修について協力可能な内容
(回答数25、複数回答あり)

内容	施設数
研修テキストの作成	20
場所、設備、機器、器具の貸与	19
講師として協力	25
標準品の調達	9

表7. 分析に関連した体制の変化について

変化の内容	施設数
分析機器が配備された	6
分析スペースが拡大した	2
分析担当人員が増加した	0
分析業務時間が増加した	8
分析に関する講習会に参加した	14
分析技術が向上した	12
分析可能品目数が増加した	12
他施設からの分析依頼件数が増加した	7
他施設からの分析依頼に協力/受諾するようになった	9

表8. 分析に関連する希望事項の優先順位

希望事項	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	合計施設数
①分析機器の設置	16	18	12	4	1	0	0	0	0	51
②分析担当人員の増加	32	9	3	1	2	3	2	2	2	56
③試薬、機器等の維持費の増加	2	6	18	6	6	5	3	1	0	47
④分析スペースの拡大	3	6	0	9	2	10	4	6	3	43
⑤標準品入手の規制緩和	3	3	10	10	9	4	6	2	0	47
⑥標準品の確保、備蓄	5	4	2	11	12	6	3	4	0	47
⑦分析費用の保険適応	1	3	1	1	1	4	9	1	16	37
⑧分析情報提供の充実	5	3	2	2	6	3	7	7	1	36
1)方法論	1	0	2	2	5	6	4	7	5	32
2)分析可能施設について										
⑨その他	1			1						2
1)研修								1		1
2)概念の浸透										

表9. 保有している分析機器、設備

分析機器、設備	保有施設数
1) Triage®	2
2) Toxi-Lab®	0
3) その他の簡易分析キット	40
4) 吸光度計	69
5) HPLC	69
6) GC	69
7) GC-MS	69
8) LC-MS	26
9) REMED®	1
10) 蛍光X線装置	11
11) ICP発光分光分析装置	38
12) 原子吸光度計	69
13) TDX®	1
14) EMIT®	1
15) RIの設備	19
16) その他	21

表10. 生体試料についての分析経験—定性分析—

	定性分析					
	分析経験なし	過去3年間の分析件数				
		0	1~9	10~29	30~299	300~
1)アセトアミノフェン	65施設(94%)	68施設	1施設	0	0	0
2)サリチル酸系薬	66 (96)	69	0	0	0	0
3)ベンゾジアゼピン系薬	65 (94)	68	1	0	0	0
4)ブロムワレリル尿素	64 (93)	67	2	0	0	0
5)バルビツール酸系	66 (96)	69	0	0	0	0
6)三、四環系抗うつ薬	65 (99)	69	0	0	0	0
7)テオフィリン	64 (93)	69	0	0	0	0
8)覚せい剤	64 (93)	69	0	0	0	0
9)麻薬	65 (94)	69	0	0	0	0
10)有機リン剤	54 (78)	59	7	3	0	0
11)カーバメート剤	57 (83)	62	5	2	0	0
12)パラコート,ジクワット	61 (88)	67	2	0	0	0
13)グルホシネート	65 (94)	69	0	0	0	0
14)グリホサート	64 (93)	68	1	0	0	0
15)青酸化合物	55 (80)	59	7	2	1	0
16)エタノール	62 (90)	68	1	0	0	0
17)メタノール	63 (91)	69	0	0	0	0
18)エチレングリコール	62 (90)	69	0	0	0	0
19)重金属	48 (70)	58	7	2	2	0
20)自然毒	54 (78)	62	6	0	1	0
21)その他	47 (68)	64	3	2	0	0

表11. 生体試料についての分析経験—定量分析—

	定量分析					
	分析経験なし (施設)	過去3年間の分析件数				
		0	1~9	10~29	30~299	300~
1)アセトアミノフェン	64施設(93%)	68施設	1施設	0	0	0
2)サリチル酸系薬	65 (94)	69	0	0	0	0
3)ベンゾジアゼピン系薬	64 (93)	68	1	0	0	0
4)ブロムワレリル尿素	64 (93)	68	1	0	0	0
5)バルビツール酸系	65 (94)	69	0	0	0	0
6)三、四環系抗うつ薬	65 (94)	69	0	0	0	0
7)テオフィリン	63 (91)	69	0	0	0	0
8)覚せい剤	63 (91)	69	0	0	0	0
9)麻薬	64 (93)	69	0	0	0	0
10)有機リン剤	54 (78)	63	4	1	1	0
11)カーバメート剤	58 (84)	65	3	0	1	0
12)パラコート,ジクワット	60 (87)	68	1	0	0	0
13)グルホシネート	62 (90)	69	0	0	0	0
14)グリホサート	61 (88)	69	0	0	0	0
15)青酸化合物	59 (86)	65	2	1	1	0
16)エタノール	61 (88)	68	1	0	0	0
17)メタノール	61 (88)	68	0	0	1	0
18)エチレングリコール	61 (88)	69	0	0	0	0
19)重金属	46 (67)	58	3	3	4	1
20)自然毒	54 (78)	64	4	0	1	0
21)その他	46 (67)	61	4	1	1	2

表12. 分析経験のある生体試料について分析を行える時間帯

分析可能な時間帯	施設数
24時間対応(常駐)	0
24時間対応(オンコール制)	1
日勤時間帯のみ	14
要請により夜間も対応	16

表13. 分析依頼を受けた依頼元—最近3年間について—
(回答数20、複数回答あり)

依頼元	施設数
保健所	14
医療機関	6
その他	6

表14. 分析依頼を受けた検体—最近3年間について—
(回答数20、複数回答あり)

検体	施設数
胃洗浄液、吐物、胃内容物	15
尿	10
血液	9
組織	2
頭髪	1

表15. 分析依頼を受けた分析費用—最近3年間について—
(回答数20、複数回答あり)

分析費用	施設数
無料で結果のみ報告	11
共同研究として無料	3
有料	3
その他	9

表16. 集団中毒事故発生時、他施設(特に保健所)からの生体試料中の分析依頼に対し受諾可能な物質
(回答数35、複数回答あり)

物質名	施設数
重金属類	28
農薬	24
有機リン、カーバメート、ピレスロイド、有機塩素系、 パラコート類、含窒素系農薬	
青酸化合物	14
自然毒	4
フグ毒、貝毒、アトロピン、スコポラミン	
PCB、ダイオキシン	4
有機溶剤	3
エタノール、メタノール、エチレンジグリコールを含む	
アジ化物	2
医薬品	2
アセトアミノフェン、サリチル酸系、プロムワレリル尿素、 バルビツール酸系、テオフィリン、ベンゾジアゼピン系薬、 三、四環形抗うつ薬	
フツ素	1
細菌産生毒素	1
セレウス菌、ブドウ球菌、ウェルシュ菌のエンテロトキシン	
GC/MSで検索可能な有機化合物 代謝形態がわかっているもの	1
不定 行政(県)とも相談しながら現有の機器、技術で できるものは全て対応	6

表17. 生体試料以外の検体について分析可能な物質
(回答数68、複数回答あり)

物質名	施設数
農薬	61
重金属	58
青酸化合物	36
有機溶剤	21
自然毒	17
医薬品	14
アジ化ナトリウム	7
麻薬、覚せい剤	3
その他	6

表18. 研修について協力可能な内容
(回答数35、複数回答あり)

内容	施設数
研修テキストの作成	14
場所、設備、機器、器具の貸与	27
講師として協力	21
標準品の調達	25
その他(情報提供)	1

平成12年度厚生科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)

「中毒情報の自動収集、自動提供システムの
構築とそのパイロットスタディ」

研究報告書

発行日 平成13年4月

発行者 主任研究者 吉岡敏治 [(財)日本中毒情報センター常務理事、
大阪府立病院救急診療科部長]

発行所 つくば市天久保1-2 つくば総合健診センター内
財団法人 日本中毒情報センター (理事長 杉本 侃)
電話番号 0298-56-3566
